中山道69次を歩く（3）

坂本宿から長久保宿まで

上田高校64期生が還暦を迎えたのを期に始まった中山道の旅。楽しく歩いているうちに秋が深まり、とにかく年内に碓氷峠を越えようということになった。

第6回は昨年12月19日。前夜からの寒波で軽井沢は積雪10㌢。雪の峠越えは不安だったが、スタート地点の横川は薄雪だったので、歩くことにした。

横川駅から旧旅籠屋が残る中山道を歩き、碓氷の関所跡に復元されている東門を通関手形なしに通り過ぎ、薬師坂を登って2㌔ほど歩くと坂本宿。徳川幕府の参勤交代制に伴い、幕命で作られた宿場。整然と区割りされた街並みが今も残る。

坂本宿の西の木戸を出てしばらく歩くと、碓氷峠自然探勝路の標柱があり、ここから杉林の登山道に入る。うっそうと茂る杉林の道は、雪もなく快適な初冬の山道、と思う間もなく、刎石坂の急登。「箱根より甚だ難所也」と古絵図に書かれているとおりの急坂を30分、路傍には南無阿弥陀仏と彫られた石や馬頭観音などがあり、苦しい登りをねぎらってくれる。

弘法の井戸、刎石茶屋跡を過ぎ、峠の中間地点の山中茶屋跡までは順調だったが、施行所跡のある沢まで下りた後の登りの長坂は、クマザサが雪の重みで道を覆い、積雪10㌢の下は霜柱で、踏みしめる足がズブズブと沈む。ここが最後の難所と声を掛け合って登り、碓氷峠の頂上にたどりついた。

軽井沢宿は、今は旧軽銀座と呼ばれて観光客でにぎわっていて、本陣跡は立て看板のみ。日没になり、クリスマス・イルミネーションで幻想的に輝く街を散策し、懇親会で疲れを癒した。

第7回は2月27日、軽井沢駅から、春まだ浅い信濃路を歩いた。沓掛宿から、中馬追いで賑わった借宿を通って追分宿へ。追分宿は中山道と北国街道の分岐点として栄え、今も江戸時代の雰囲気を残している。宿場出口の分去れの碑から、左の中山道をたどり、小田井宿へ。

小田井宿は小さな宿場だったというが、本陣、問屋、旅籠屋など江戸時代からの建物が現存していて、昔にタイムスリップした気分になる。

第8回は3月27日、今は商店街になってにぎわっている岩村田宿から塩名田宿へ。右手に浅間山、左手に八ヶ岳を見ながら、リンゴ園と田んぼの中の道を歩く。塩名田宿は千曲川を前に、河岸段丘上に本陣、脇本陣、旅籠屋、問屋があり、崖下に河原宿がある。千曲川に架かる橋の上から見た浅間山は美しく、急いで通り過ぎてしまうのは惜しいほど。

五郎兵衛新田の中の道を歩くこと約3㌔で八幡宿。米の集散地として栄えた問屋や脇本陣兼問屋の建物が今も残り、和宮様お泊りの本陣門も残っているが、静かな宿場である。

瓜生坂を越えて鹿曲川を渡ると望月宿。現在も当時の建物が多く残り、宿の至る所に比田井天来ゆかりの書道家による揮毫（きごう）看板が掲げられているのがいい。

第9回は4月25日、間の宿茂田井入口から歩く。宿場用水のせせらぎが聞こえるような静かな宿場。酒と旅を愛した牧水が逗留した酒蔵の入口には歌碑が建てられている。名主で本陣も務めたという酒蔵では、善光寺秘蔵酒を試飲。満開の桜を見ながら芦田宿へ。

中山道長久保宿

芦田宿本陣の門を入ると、鯱（しゃち）の屋根飾りのある豪壮な装飾の客殿があり、間取り図が掲示してあるので、中に入れないが、奥の客殿の様子を想像した。

芦田宿を出ると、笠取峠。松並木の木漏れ日の中を旅人気分で上る。峠の一里塚に松とともに植えられた枝垂れ桜は満開。峠の上からは、中山道原道が復元、整備してあって歩きやすい。

長久保宿は交通の要衝にあり、旅籠屋、問屋の数も多かった。明治になって、鉄道の沿線からはずれたため、かつてのにぎわいがなくなったが、旅籠屋、問屋の建物が残り、一福処・資料館も整備されていて楽しめた。

清水計枝（64期）

ソフトウェアの
システム技研株式会社
代表取締役　清水 通男（66期）
〒169-0075　東京都新宿区高田馬場 1-34-1 サンフジビル 5F
TEL (03)5272-8830　FAX (03)5272-8836
URL http://www.s-giken.com